

移動・空間・時間研究会

◎ 山本晃子（文学研究科D1）、○寺倉大智（言語教育情報研究科M2）、DU Tianyi（文学研究科D5）、ZHAO Wuyang（文学研究科D2）、YIN Yuqi（総合研究大学院大学D1）*、川畑祐貴（京都大学大学院文学研究科D3）* ◎代表者、○副代表者、*外部メンバー

目的

本研究会では、世界の言語(主に日本語・中国語・韓国語・英語)を対照しながら、認知言語学(認知意味論)やその他の言語学の理論を援用し、言語の空間時間認知の一端を明らかにすることを目的としています。

定期的な勉強会の開催

春学期は2週間に一度、秋学期は1か月に一度程度、勉強会を開催しました。勉強会ではメンバーの興味のある論文の紹介や、メンバー自身が行っている研究についての発表を行いました。発表後のディスカッションを通して、メンバー全員の学びを深めることができました。

【論文紹介】

宮崎(2004)「モンゴル語の空間表現の多義性と遊牧地域における特徴的な使いわけ」(山本)

【発表】

「韓国語の時間的遠近の表現方法について：時点位置と時間間隔の関係性」(川畑)

「Encoding of deictic motion expressions and its relationship with visibility in semantic variations of putting and taking events in Chinese Xiang dialect」(YIN)

など

学外の先生を招いた特別講演会

2024年2月17日(土) 立命館大学

中国語の空間・移動表現
—研究テーマの探索を念頭に—

丸尾 誠 (名古屋大学)



名古屋大学教授丸尾誠先生をお招きし、講演会を行いました。丸尾先生には院生の今後の研究に役立つようにと「研究テーマの探求」を念頭に、中国語の空間表現について幅広く、体系的にお話いただきました。研究会メンバー以外にも、院生、現役の大学教員など、外部の方にもご参加いただくことができました。

研究会実績

- メンバーらの修士論文、博士論文（執筆中）
- 川畑祐貴（2023）「時間的遠近の強調的表示について：朝鮮語の時間語彙を中心に」『京都大学言語学研究』42: 77-99.
- 寺倉大智（2024）「中国語の「形容詞と補語」を述語にする“被”受身文の構文的特徴」『院生論文集（言語と言語教育をめぐる）』掲載予定.
- 山本晃子「助数詞〈つ〉または〈個〉を用いて数えられている対象の特徴に関する分析—『日本語日常会話コーパス』を使用した実態調査—」日本言語学会第167回大会にてポスター発表.
- DU Tianyi「中文、日語和英語三个语言中的移动表达和结果構文的共通性（日本語、中国語、英語三言語における移動表現と結果構文の共通性）」2024ソウル・京都 東アジア次世代フォーラムにて口頭発表.
- YIN Yuqi「「着く」と「着いてくる」の多義性についての一考察—BCCWJコーパスを用いて—」Evidence-based Linguistics Workshop 2023にてポスター発表.
- ZHAO Wuyang「スコープの「のだ」と「是・・・的」構文の再考」第67回立命館大学日本文学会大会にて口頭発表.